

(2) 病原体定点対象感染症

ア 月別ウイルス分離・検出状況 (P37 表 14 参照)

(ア) アデノウイルスは、1 型、54 型、40/41 型が最も多く分離・検出された。28 年まで多く分離検出された 2 型はあまりなかった (P38 図 7 参照)。

(イ) 2016/17 シーズン (2016 年 9 月 1 日～2017 年 9 月 3 日) のインフルエンザウイルスは、AH3 型が主に流行し、検出数も 79%を占め、A(H1N1)2009 型、B 型山形系統、B 型ビクトリア系統と比較し多かった。また、シーズン終りに A(H1N1)2009 型が検出された (P38 図 8-a 参照)。2016/17 シーズンに AH3 型は 48 件、A(H1N1)2009 型は 7 件、B 型は 6 件検出され、B 型はビクトリア系統、山形系統が各 3 件であった (P39 図 9 参照)。検出された A(H1N1)2009 型のうち、7 件についてタミフル耐性遺伝子を調べたところ、2 件からはタミフル耐性遺伝子は検出されず、残りは判定不能であった。

2017/18 シーズン (2017 年 9 月 4 日～2018 年 9 月 2 日) のインフルエンザウイルスは、A(H1N1)2009 型が主に流行が始まり、当初多く検出された。その後、例年になく B 型山形系統が年末から流行し、春にかけて多く検出された。また、2018 年初めには A(H1N1)2009 型が減少し、AH3 型が増加した。さらに、シーズン終りに A(H1N1)2009 型が検出された (P39 図 8-b 参照)。2016/17 シーズンに AH3 型は 21 件、A(H1N1)2009 型は 13 件、B 型は 25 件検出され、B 型は山形系統が 24 件、ビクトリア系統が 1 件であった (P39 図 9 参照)。検出された A(H1N1)2009 型のうち、9 件についてタミフル耐性遺伝子を調べたところ、4 件からはタミフル耐性遺伝子は検出されず、残りは判定不能であった。

(ウ) エンテロウイルスについては、7 月に最も多く分離・検出された。型で多かったのは CVA6 が 8 件、CVA10 とエンテロウイルス 71 型が各 2 件であった (P40 図 10 参照)。

(エ) ライノウイルスは、5 月から 7 月に検出された。

(オ) RS ウイルスは、8 月から 11 月に A 亜型 (計 8 件) が検出された。

(カ) A 群ロタウイルスは、3 月、4 月、6 月、7 月、11 月に検出された (P40 図 11 参照)。

(キ) アストロウイルスは、4 月に検出された (P40 図 11 参照)。

(ク) ノロウイルスは、2 月、3 月を除いて検出された (P40 図 11 参照)。遺伝子群はすべて GII であった。

(ケ) サポウイルスは、3 月、5 月、8 月、10 月、11 月に検出された (P40 図 11 参照)。

表14 採取月別ウイルス分離・検出状況(平成29年1月～12月)

検出病原体	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アデノ 1型	2				1			1				
アデノ 2型			1							1		
アデノ 3型							1	1				1
アデノ 4型							1	1				
アデノ 5型						1						
アデノ 6型												
アデノ 7型												1
アデノ 8型	1	1										
アデノ 40/41型		1	2					1				
アデノ 54型								1	3			
アデノ 56型		1										
アデノ 64型					1	1				1		
アデノ 型不明									1		1	
インフルエンザ AH3	13	17	13	3							1	2
インフルエンザ A(H1N1)2009	1	2						1	3		1	2
インフルエンザ B Victoria系統				2	1							1
インフルエンザ B Yamagata系統				1	2							2
パラインフルエンザ 1型												
コクサッキー A2型												
コクサッキー A4型												
コクサッキー A5型							1					
コクサッキー A6型						2	5	1				
コクサッキー A10型										1	1	
コクサッキー A16型												
コクサッキー B3型												
コクサッキー B5型												
エコー 3型												
エコー 5型								1				
エコー 6型										1		
エコー 18型												
エコー 25型												
コクサッキー A71型										1		1
ライノ					1	1	1					
ムンプス	2		3	1	1	1					1	
RSウイルス A亜型								1	4	2	1	
RSウイルス B亜型												
A群ロタ			2	2		2	1				1	
アストロ				1								
ノロ GII	2			2	1	2	2	1	5	4	4	5
サポ			1		1			1		1	1	
ヘルペス 1,2型												
ヘルペス 3												
ヘルペス 5												
ヘルペス 6												
ヘルペス 7												

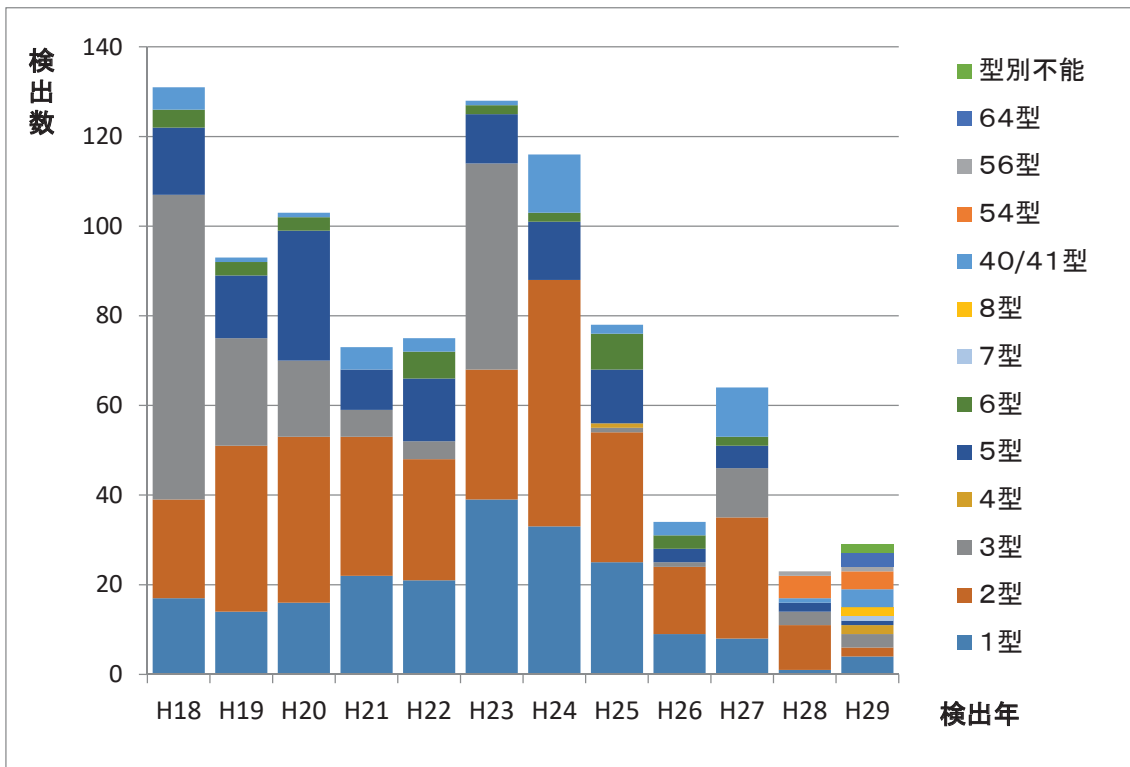


図 7 年別型別 アデノウイルス検出状況

平成 29 年は 2 型が減少した。

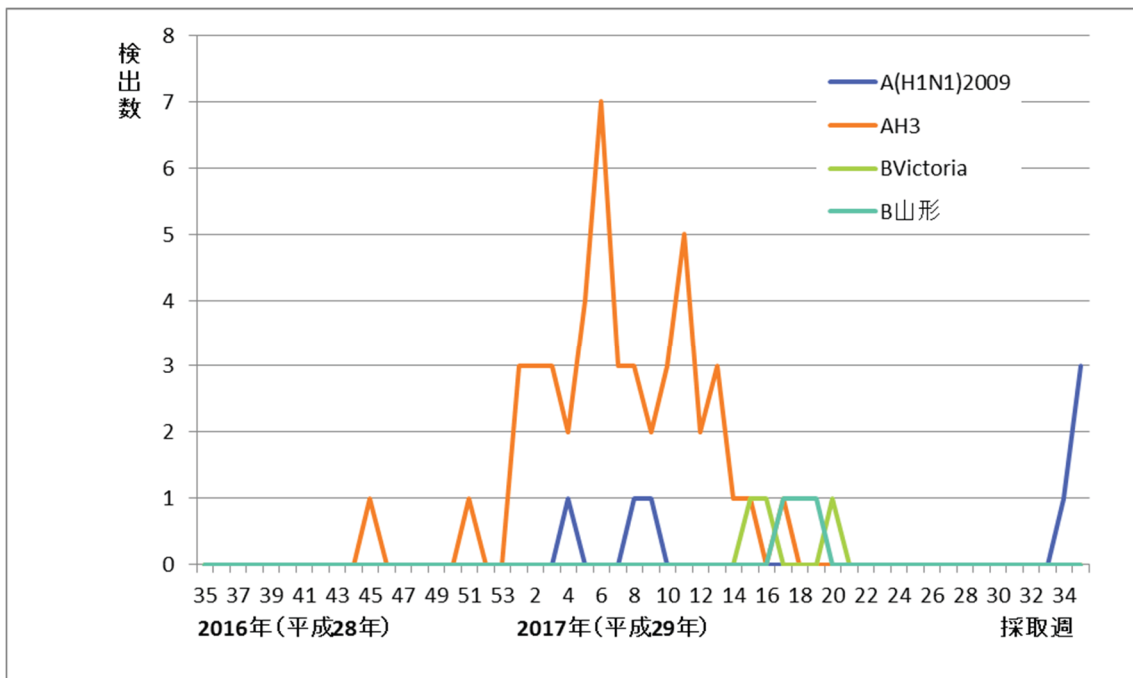


図 8-a 2016/17 シーズン インフルエンザウイルス検出状況

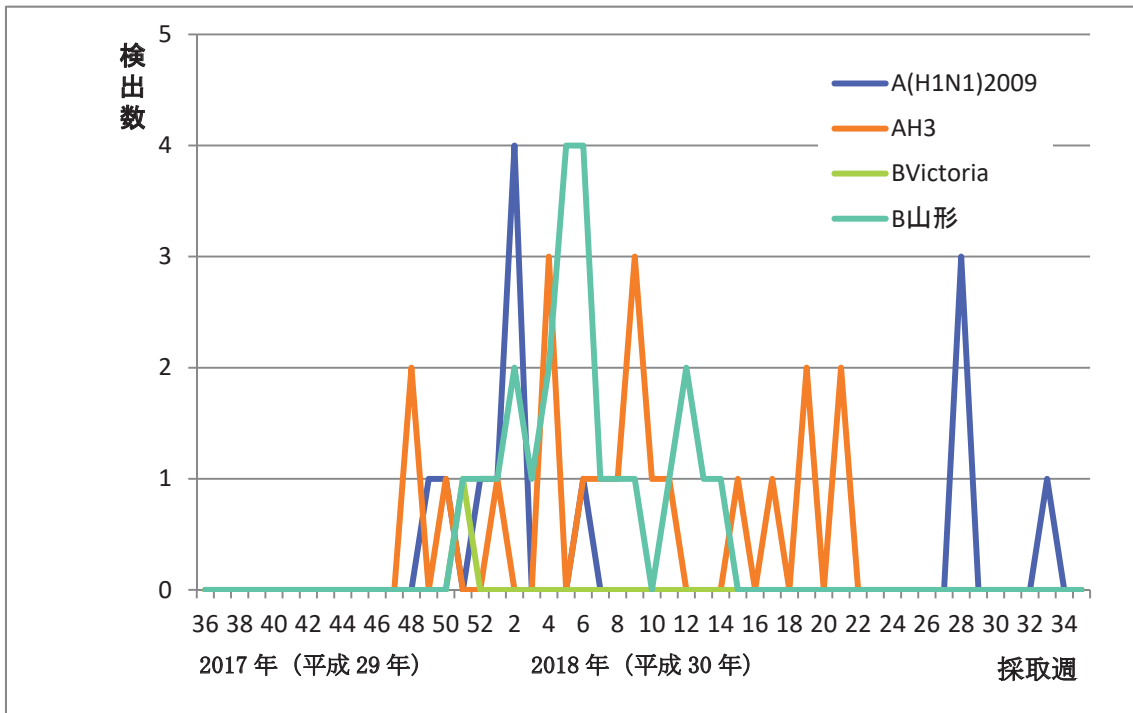
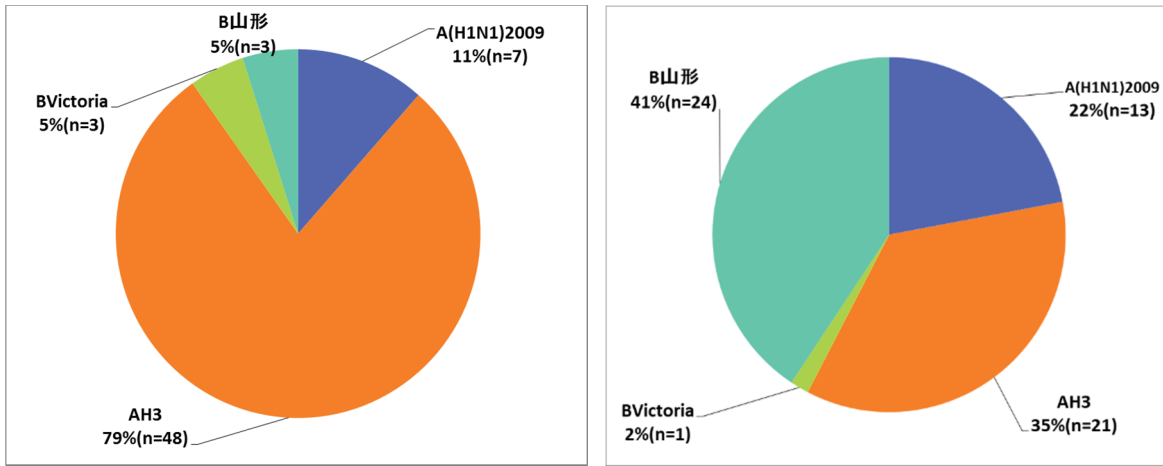


図 8-b 2017/18 シーズン インフルエンザウイルス検出状況



<2016/17 シーズン>

<2017/18 シーズン>

図 9 2016/17、2017/18 シーズンにおけるインフルエンザウイルス型別検出割合

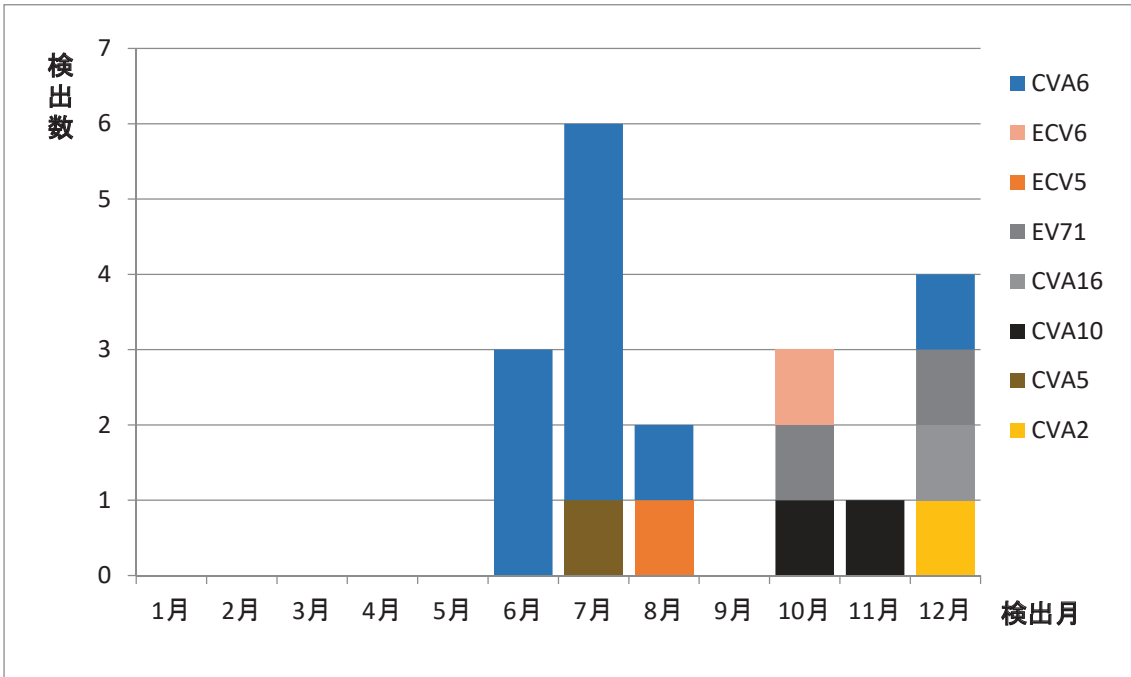


図10 平成29年 月別 エンテロウイルス検出状況
 7月に最も多く分離検出された。型が多かったのはCVA6であった。
 CV：コクサッキーウイルス

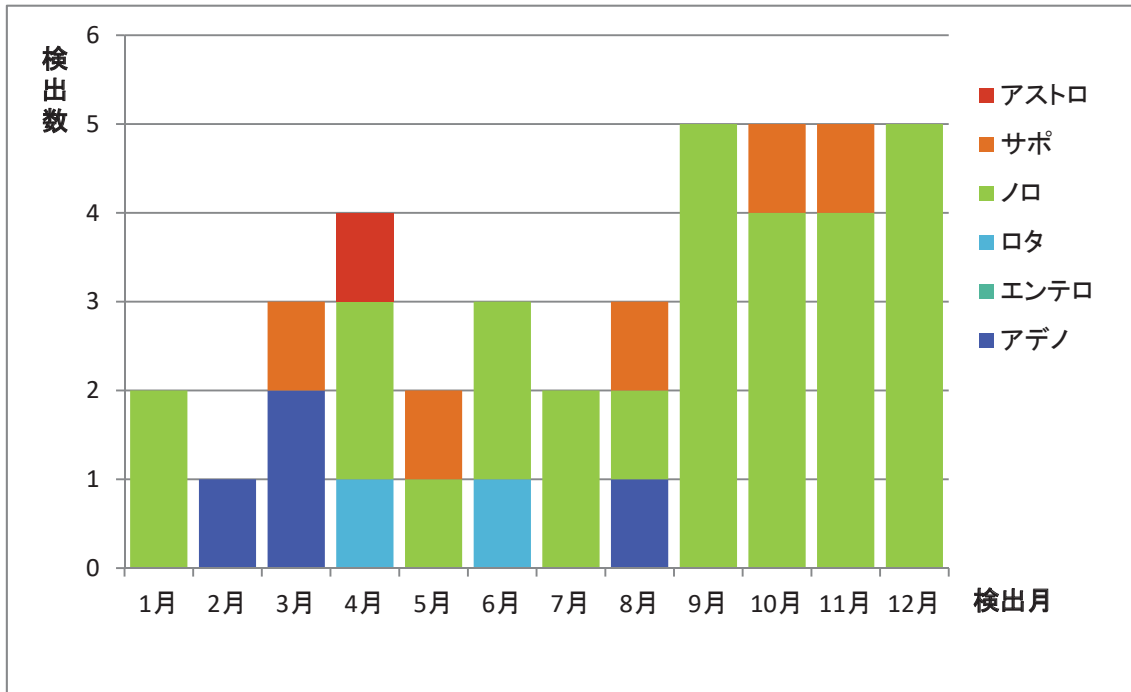


図11 平成29年 月別 便検体由来ウイルス検出状況
 ノロウイルスが2月と3月を除き、検出された。

イ 月別細菌分離・検出状況

(ア) A群溶血性レンサ球菌が8件検出された。血清型はT4型が2件、T1型とT12型が各1件、型不明が4件であった。2月、3月、5月、6月、10月から12月に検出された（表15参照）。

表15 月別A群レンサ球菌分離状況(平成29年1月～12月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
A群レンサ球菌型不明		1	1							1	1		4
A群レンサ球菌T1型						1							1
A群レンサ球菌T4型					2								2
A群レンサ球菌T6型													0
A群レンサ球菌T12型												1	1
A群レンサ球菌T25型													0
A群レンサ球菌T28型													0

(イ) 百日咳菌は、6月に1件検出された。